教育広報　南会

編集・発行　福島県教育庁南会津教育事務所
発行責任者　渡　辺　惣　吾
編 集 協 力　市町村教委連絡協議会南会津支会
南会津郡小中学校長協議会

「町の未来はＥＳＤ教育」

只見町教育委員会教育長
齋　藤　修　一

昨年の只見町総合戦略における「人口ビジョン」は衝撃的なものでした。少子・高齢・過疎の三拍子に悩む町にとって、現在人口４,６００人が、２０４０年（２３年後）には２,６００人となり５６.５％の激減となるという極めて厳しい現実でした。

先細りが懸念される町の未来を考えた時、学校教育はどんな責務を担わなければならないのだろうか、自問が胸中を幾度となく過りました。辿り着いたのは、やはり学校教育の最終目標は、「持続可能な地域を担う人材の育成（ESD：Education for Sustainable Development)」これ以外にないのではないかという結論でした。このことは、本町が世界的な認証を受けた「ユネスコエコパーク（人と自然の共生によるモデル地域)」の在り方にまさに合致するのです。

そこで今後１０年間の教育を転換していきたいと考えています。まず、第一は「否定教育から誇り教育への転換」です。地域や生き方を否定するのではなく只見を誇りにできる学びで「只見愛」を醸成することです。第二は「学ぶ教育から貢献する教育への転換」です。学びを地域貢献に結実させる教育をしていきたいのです。第三は「山間地で海洋教育を付加する教育への転換」です。源流只見川の水循環を通して海を学びグローバルな人材と、海を資源とした新しい産業の基軸を創出できる人材育成をすることです。第四は「ブーメラン人材やアイターン人材を育成する教育への転換」です。今回設立した公営塾（心志塾）は学校教育と連携しながらその役割を担うものと期待しています。最後は「保育所・小中学校・只見高校との一貫教育への転換」です。「地方創生は教育から」を発信しませんか。

「南会津は『ほっこり』」

福島県教育庁南会津教育事務所
次長（業務）兼学校教育課長
馬　場　俊　忠

南会津には優しさが溢れていると私は思っています。数日続く大雪の時も老若男女、隣近所で助け合いながら除雪をしています。互いを思いやる温かい気持ちが雪を少し溶かしているのかもしれません。

ここで、温かい南会津のエピソードをご紹介します。

所長と私は、初夏の○○訪問後、休息と栄養補給のため食堂に入りました。注文を済ませて待っていると娘さんが出前から帰ってきました。間髪入れずに母親が「お帰り、暑かったべぇ。」、娘さんは「そうだに暑くねぇがら、さすけねぇぞや。」と答えました。２分ほど経って、娘さんから「△△さんから領収書頼まれてやったがや？」と母親に小さな声で話しかけました。母は「あっ！忘っちぇだ。ごめんよ。オレが持ってぐ。」と応えました。娘さんがさらに「そうがと思って、次の出前の時、持ってくっから許してけやれと言っといたから。」と続けました。互いに気遣う親子の会話に、食べていたラーメンのスープが少し塩辛くなりました。

私たち教職員には、子どもに身につけてほしいことが数多くあります。しかし、簡単には身につけられないのが現実です。学力をはじめ、幼小中高と毎日の積み重ねが人としての総合力を形成していきます。我々にできることは限られていますが、日々の授業を含めて、互いの関わりを見直して、落語にもでてくる栴檀（せんだん）と南縁草（なんえんそう）の関係のように子どもたちの心に訴えかける指導、南会津ならではの『ほっこり』した指導を加えて続けていくことが重要ではないでしょうか。人を育てるのに特効薬はありません。

胸がいっぱいなのと血圧を気にして、スープを残したという罪悪感に浸りながら午後の○○訪問へ出発しました。その後、私たちが訪問した学校でも『ほっこり』した指導？をしたことは言うに及びません。

南会津夢教育２０１６
郷土を愛し、夢や希望をもってともにたくましく生きる子どもの育成

コアティーチャーとして

【算数科コアティーチャー】
荒海小学校　塩生　文子

この１年、少しでも先生方の役に立てれば、そしてそれが子どもたちの学力向上につながればとの思いで、算数コアティーチャーとして取り組んできました。

忙しい日々の中で教材研究をする先生方や、頑張って授業に取り組む子どもたちの姿に感銘を受けながらも、それが成果として表れてこない切なさも感じました。

そんな時、相田みつをさんの詩を読むと少し見通しが持てるのです。「ともかく具体的に動いてごらん。具体的に動けば、具体的な答が出るから」これからも、南会津の子どもたちのために具体的に動いていこうと思います。

【数学科コアティーチャー】
南会津中学校　斎藤　一範

コアティーチャーとして小学校を訪問し、先生方の丁寧な授業や子どもたちが笑顔で授業に取り組む姿に出会いました。中学校で自分自身が授業をしている時の子どもたちの表情を思い浮かべ、工夫する必要性を強く感じました。そこで、まず「課題提示の工夫」に取り組みました。身近な事柄を用いたり「おや？」と思わせたりすることで子どもたちの表情が少しずつ笑顔になってきました。難しい課題にも挑戦する姿も見られるようになりました。それでも改善すべき点はたくさんあります。子どもたちの「できるようになりたい」という気持ちに答えられるよう日々の授業を大切にしていきたいと思います。

【理科コアティーチャー】
江川小学校　栗木　　健

「うわー。すごい！」３年教室前の廊下から響く歓声。昼休み、モンシロチョウがさなぎから羽化する瞬間を見た子どもたちの目は、皆きらきらと輝いていました。

この１年、自分自身が子どもたちと一緒に勉強するつもりで、研究授業や研修をさせていただきました。理科好きな子どもを育てるという使命がありながら、実は自分がますます理科好きになってきているような気がします。次年度以降も、たくさんの「ふしぎ」を子どもたちと共有し、もっと理科好きを増やしていきたいと思っています。

【理科コアティーチャー】
檜沢中学校　穴澤　嘉寛

今年度コアティーチャーを務めさせていただき、普段はなかなか触れ合うことのできない小学校の先生方や、他の中学校の理科の先生方とともに研修に取り組むことができました。自分だけでは気づくことのできない発見や、他校種ならではの視点に触れることで、自らの授業を様々な視点から見つめ直すきっかけとなりました。この経験を今後の授業の中で子どもたちへと還元していけるよう、さらに研修に努めていきたいと思います。

教育相談より

「身近にいます♪スクールソーシャルワーカー」
南会津教育事務所ＳＳＷ　橋本　美穂

「スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）とは何ですか？」初めてお会いする先生からこっそり聞かれる事があります。平成29年1月に、文部科学省の教育相談等に関する調査研究協力者会議より「児童生徒の教育相談の充実について ～学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくり～(報告)」でＳＳＷの職務内容等が具体的に示されたため、一部抜粋し、域内の配置状況を含めてご紹介いたします。

〈スクールソーシャルワークとは何？〉

不登校、いじめや暴力行為等問題行動、子どもの貧困、児童虐待等の課題を抱える児童生徒の修学支援、健全育成、自己実現を図るため、ソーシャルワーク理論に基づき、児童生徒のニーズを把握し、支援を展開すると共に、保護者への支援、学校への働き掛け及び自治体の体制整備への働き掛けを行うことをいいます。また、児童生徒の最善の利益を保障するため、学校等においてソーシャルワークを行う専門職をＳＳＷと呼びます。

〈配置場所・人数・担当学校は？〉

南会津町教育委員会２名(南会津町立小中学校)、下郷町教育委員会１名(下郷町立小中学校)、
只見町教育委員会１名(只見町立小中学校)、南会津教育事務所１名(南会津郡内の県立高校、檜枝岐村立小中学校)

〈勤務形態は？〉

週１～４日勤務(H28年度)。配置校・重点校への定期訪問、要請による学校訪問、ニーズ把握のための巡回など、配置先により勤務形態や勤務日数が異なります。
※　ＳＳＷ派遣の方法、勤務日については各配置場所までお問い合わせください。

〈SSW の資格は？〉

社会福祉士、精神保健福祉士等。子ども家庭福祉と学校教育の両面において専門的な知識や技術を有する者等。

〈学校では具体的に何をするの？〉

校内巡回、授業参観、定例会議等への参加、教職員・ＳＣとの情報共有、児童生徒・保護者からの相談対応（面談・家庭訪問等)、ケース会議を促して組織として対応するための校内体制づくりの支援、関係機関との連携、教職員等への研修等。

南会津夢教育学校紹介
～　南会津っ子一人一人の夢　実現のために　～

閉校を迎えて　～地域に支えられて７０年～
南会津町立檜沢中学校

昭和２２年に施行された教育基本法、及び学校教育法を受けて、本校は「檜沢村立檜沢中学校」としてそのスタートを切りました。以来、７０年の長きにわたり豊かな人格形成と学力・体力の向上を基本目標として掲げ、その実現のために地域・保護者・教職員・生徒が一丸となって取り組んで参りました。

「ＴＴ方式推進モデル校」や「中高一貫教育実践研究推進校（旧文部省）」等の数々の研究指定を受けながら、少人数教育の研究を先駆的に進めてきた先輩教師たちの絶え間ない努力と厳しい研鑽を経た指導により、いずれの時代においても生徒たちは確実に学力を伸ばしてきました。

また、部活動においては、県大会で２度優勝し、日本武道館での全国大会にまで進出した剣道部を始めとして、県大会で優勝、東北大会でベスト８となったソフトボール部や東北大会、全国大会の常連となったスキー部など、少ない生徒数でありながらも、大規模校にも負けない実績を残してきました。

さて、創立時の記録を調べてみますと、当時の地域の皆様の並々ならぬ本校への熱意と期待が感じ取れます。創立２年後に、新たに校舎が作られることになった際には、戦後間もない混乱期で、予算も十分になかったため、村民（旧檜沢村）総出で敷地の整地作業を行ったり、施設・設備費の不足を生徒・職員・保護者・住民による勤労奉仕作業の収益金でまかなったりしていたようです。その後の校庭の整地も、３０００本もの樹木の植樹も、地域の皆様のお力をお借りしています。まさに住民の手で作られた学校でありました。

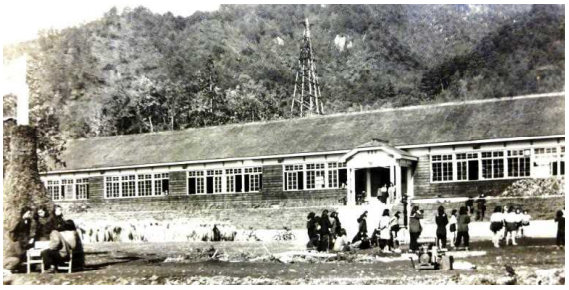
そして、町村合併による２度の校名変更を経て、「南会津町立檜沢中学校」となった現在にいたるまで、本校は陰に陽に地域の皆様に支えられてきました。生徒たちをいつも温かく見守って下さり、学校には折に触れ励ましのお言葉や季節の花を届けて下さいました。また学校行事や授業でもご協力いただくなど、その物心両面にわたるご支援は枚挙にいとまがありません。

そこで、今までお世話になった地域の皆様に、私たちの感謝の気持ちをお伝えしようと、今年度の文化祭（ひのき祭）を「第２の閉校式」と位置づけ、桧沢地区全戸にご案内を出すと共に、限られた範囲ですが、卒業生の方々にもご来校を呼びかけました。また、内容も従来の発表内容に加え、「故郷・桧沢」をテーマとした調査研究の発表の時間も設定しました。その結果、当日は地域の皆様はもちろん、県内外から集まっていただいた卒業生を含め、４００名ものお客様にお出でいただき、盛大に開催することができました。特に、会場にいる全員が心を合わせた校歌斉唱（期間中３回実施）は大変感動的でした。

３４００名もの卒業生を送り出し、地域・文化の拠点として輝かしい歴史と伝統を築いてきた本校がなくなってしまうことは誠に寂しい限りですが、生徒たちには「檜沢中の誇り」を胸に、新しい友と協力し合いながら、「新生田島中」の新たな歴史を創り上げていって欲しいと願っています。

今年度の第１学期始業式で、「今年は檜沢中の最後の１年。私たちは最後の檜中生。最後まで檜中生らしくあり続けよう。」と生徒たちと誓い合いました。

閉校式は３月２３日に行われます。



創立当時の校舎（昭和２５年）

主な受賞の記録

（敬称略）

【スポーツ庁】
○全国学校体育研究功労者　南会津中学校長　馬場　永好

【福島県教育委員会】
○へき地教育功労者　南会津中学校長　馬場　永好
　下郷中学校長　室井　永治

○優秀教職員　南郷小学校　主査　白井多恵子
　田島中学校　教諭　生出　貴志
　南会津中学校　養護教諭　目黒　久美

○福島県教職員研究論文
　入　選　只見小学校、朝日小学校
　奨励賞　明和小学校

【福島県】
○学校給食優良団体・功労者表彰
　功労者　荒海中学校　栄養教諭　横田　みえ子

○学校保健会表彰　学校保健功労者
　舘岩中学校　養護教諭　阿久津美紀子
　檜沢中学校　養護教諭　川 島　京 子

「養護教諭としての１年間を振り返って」

新採用養護教諭
南会津町立南郷小学校
養護教諭　渡邉　裕子

新規採用養護教諭として南会津町で過ごし始めて、もうすぐ１年が経とうとしています。あっという間のようで、とても密度が濃く、充実した１年間でした。

昨年まで大学生だった私は、茨城県から福島県へと住む環境が変わり、学生から先生へと立場が変わり、大きな変化と共に、この１年間は多くのことを学び、吸収し、養護教諭としても、社会人としても１年目の私にとって、今後への大きな糧となった１年間でした。

全てのことが初めての経験であり、この１年間は右も左もわからず、不安も多くありました。そんな中で、辛いことや悩んだことがあったときに、子どもたちの笑顔に何度も元気をもらいました。また、初任者研修を通して出会った先生方や、郡内の養護教諭の先生方、職場の先生方には、たくさんのご指導をいただいたことがとても心強く、感謝の気持ちでいっぱいです。

まだまだ悩んだり、迷ったりと試行錯誤する毎日ですが、初心を忘れずに、自分が子どもたちのためにできることは何なのかを１番に考えながら、養護教諭の職務に励んでいきます。

「１年間を振り返って」

新採用主事
只見町立朝日小学校
主事　岡　ゆみえ

この１年間はとても充実していてこれまで経験したことのない時の流れの速さを味わいました。

着任したばかりの頃は、電話に出ることもできず、自分の仕事は何なのかも充分に分かりませんでした。しかし、頼れる同僚の先生や近隣の事務の先生方の助けもあり少しずつ自分の仕事を理解し、仕事ができるようになりました。

また今年は初任者用の研修をたくさん行っていただき、学校事務の基本を身に付けるための良い機会となりました。その研修の中で印象に残った言葉は「慣れてきたら、原理・原則に戻る」です。仕事や環境にも慣れてきて働くことが楽しいと感じます。楽しいことも増えてきましたが、気の緩むときも増えてきたように思います。気の緩みによって失敗が起きてしまうので、引き締めて職務にあたりたいと思います。

次年度は研修で学んだことを活かし、子どもたちが過ごしやすい・学びやすい学校づくり、そして先生方を今年度以上にサポートしていきたいと思います。

いきいき南会

「１年間を振り返って」

新採用栄養技師
只見町立只見中学校
栄養技師　三津間　恵

学校栄養職員として只見町にお世話になっております。着任当初は初めてのことばかりで 不安も多くありましたが、周りの方々に支えていただき、1 年間業務を行うことができました。給食センターに毎日届く、子どもたちからの給食の感想や「おいしい！」という笑顔に給食づくりのやりがいを感じています。

給食を作るためには、給食センター職員だけでなく納入業者や地域の方、各学校の先生方など多くの方々と連携していく必要があります。現場の声に耳を傾け対応していくことが大切だと感じました。これからも子どもたちのために安全安心でおいしい給食を提供したいという思いを、給食に関わる多くの方々と共有するよう心がけ、勤務していきたいです。まだまだ未熟な私ですが、日々努力を積み重ね、未来を担う子どもたちのためにおいしい給食を作っていきたいと思います。地域と共に食の大切さを伝えられる学校栄養職員になれるよう今後も努力していきます。

管理の窓

「教職員の勤務の適正化と負担軽減に向けた取組について」

ここ数年、各学校においては会議の見直し、事務処理の省力化など多忙化解消のための取組が多く見られるようになってきています。多忙化解消は、教職員の心身の健康に大きく寄与し、日々の教育活動充実はもちろん、一人一人の子どもに教員が向き合う時間を確保するとともに、不祥事や学校事故の防止にもつながります。

各学校での創意と工夫ある取組が見られる一方、学校によっては未だに長時間の超過勤務も見受けられ、改善が必要とされています。

以下の項目をチェックしてみましょう。

- □　毎日の出退勤時刻をしっかり記録し、日々の退勤時刻、体調等を確認し声かけを行っているか。
- □　仕事が特定の人に集中しないように工夫しているか。集中した場合のサポート体制は整備されているか。
- □　限られた時間の中で効率良く仕事を進める工夫をしているか。（長時間勤務が仕事熱心ではない）
- □　個人的な「こだわり」で勤務時間が長くなっていないか。（本当に必要な業務か常に見直しを行う）
- □　ノー残業デー、リフレッシュデーなどの工夫がなされているか。年休は取得しやすいか。

編集後記

平成２８年度も残りわずかとなってきました。それぞれの学校、立場で、子どもたちのために力を注いでいただいている方々を一人でも多く紹介したいと考え、紙面を構成しました。今後も、南会津の子どもたちのために、一丸となって取り組んでいきましょう。

寄稿していただきました皆様に心より感謝申し上げます。